

# 日本語 I

## 1. 性格

国際社会は～(後略)

## 2. 目標

日常生活に必要とされる基礎的な日本語コミュニケーション能力を育むことで日本人と交流できる能力を育てる。

ガ. 意思疎通基本表現を理解し、状況に応じて活用する。

ナ. 日本文化についての理解を通して世界市民意識を育む。

ダ. 様々なメディアと資料を活かして情報交流能力を育て、この能力を状況に応じて活用する。

## 3. 内容体系および成就基準

### ガ. 内容体系

領域	核心要素	内容	機能
言語的 内容	発音および文字	・ ひらがなとカタカナ、漢字 ・ 清・濁音、長・短音、拗音、促音、拍、抑揚 * 韓国語の仮名表記法、外来語表記法の規定に従って表記する。	・ 聴く ・ <u>聴いて理解する</u> ・ <u>聴いて反応する</u>
	語彙	・ ことばの <b>基本意味と派生意味</b> ・ ことばの結合関係 ・ 慣用的な表現 ・ 漢字の音読み・訓読み * [別表Ⅱ]に掲げられた基本語彙を中心に約 500 程度のことばを使う。	・ 話す ・ 表現する ・ <u>状況に応じて話す</u> ・ 仮名と漢字を読む ・ 読んで理解する ・ <u>読んで意味を把握する</u>
	文法	・ 現代日本語文法 * [別表Ⅰ]に掲げられた <b>意思疎通基本表現</b> に使われた文法内容と、 [別表Ⅱ]の基本語彙表に掲げられた文法要素の範囲内で扱う。	・ 書く ・ 仮名と漢字を書く ・ <u>文法的に正しく書く</u>
	意思疎通表現	・ <b>あいさつ、紹介、配慮および態度伝達、意向および意思伝達、情報要求、情報提供、行為要求、談話の展開</b> などの意思疎通機能を状況に応じて適切に使用する。 * [別表Ⅰ]に掲げられた <b>意思疎通基本表現</b> を参考にする。	
文化的 内容	文化	・ <b>日本の簡略な概観</b> ・ 言語文化 ・ 非言語文化 ・ 日常生活文化 ・ 大衆文化 * 上に掲げられた素材を <b>選択的に</b> 扱うこともできる。	・ 理解する ・ 表現する ・ 発表する ・ 討論する

## Ⅲ. 成就基準

### (1) 聴くこと

- [12일 I-01-01] 音声的特徴に気をつけて正確に聴く。
- [12일 I-01-02] 短くて易しい文章や会話を聴いてキーワードの意味を理解する。
- [12일 I-01-03] 意思疎通基本表現と関連した易しい文章や会話を聴いて大意および意図を把握する。
- [12일 I-01-04] 日常生活と関連した簡単な文章や会話を聴いて適切に反応する。
- [12일 I-01-05] 短くて易しい文章や会話を聴いて地位や親密度などの違いを区別する。

### (가) 学習要素: 基本語彙表、意思疎通基本表現、言語文化

- あいさつ: 出会い、別れ、安否、外出、帰宅、訪問、食事、年末、新年、お祝い
- 紹介: 自己紹介、家族の紹介、他人の紹介
- 配慮および態度伝達: 感謝、謝り、称賛(褒め)、苦情・文句、激励、慰労、承諾・同意、拒絶・反対、遠慮、謙遜、遺憾
- 意向および意思伝達: 希望、意志、目的、意見述べ、期待、感情、訂正・否定
- 情報要求: 存在、場所、時間・時、選択、比較/対比、理由、方法、状態、具合・都合、好み・趣味、能力・可能、経験、確認
- 情報提供: 案内、推測、伝言、状況説明
- 行為要求: 依頼、指示、禁止、勧誘、助言・提案、許可、警告
- 会話進行: 話しかけ、言いよどみ、話題の転換、相づち、聞き返し
- 言語文化: 依頼の仕方、受諾・断りの仕方、呼びかけの仕方、表現的な特徴など

### (나) 成就基準の解説

- 言語の4技能(聴く・話す・読む・書く)ごとに成就基準を提示しているが、学校の現場においては言語の4技能を有機的に統合させて教授・学習を行うことを勧める。
- 日本語の音声的特徴とは、清・濁音、長・短音、拗音、促音、拍、抑揚(イントネーション)など、発音上の特徴を言う。

### (다) 教授・学習方法および注意事項

- 音声を聴かせ、ことばカードのような学習資料を利用して清・濁音、長・短音、拗音、促音などを区別させる。
- 音声を聴かせ、手をたたいたりして拍を区別させる。
- 短い文を聴かせ、音声ソフトなどを活用して自然なイントネーションを理解させる。
- 口腔断面図などを活用し、韓国人が間違いやすい発音を聴いて区別できるように指導する。
- 授業でよく使われる教室日本語を聴いて適切に反応できるように指導する。
- 絵や写真、コマーシャルのような広告などを用いてことばの意味を理解させる。
- 数字やことばなどと関連した歌を聴かせて意味を理解させる。

- 短いメディア資料の音声を聴かせてその意味を理解させる。
- 易しい文章や会話を聴いてその内容に合っている絵や図表などを選ぶように指導する。
- 易しい会話を聴かせ、地図や路線図などの絵を見て該当する場所を探し出せるように指導する。
- 天気予報、電話の会話、簡単な会話などを聴いてその主な内容を探し出せるように指導する。
- 短くて易しい広告(コマーシャル)やアニメーションのような動画を見て主な内容を理解できるように指導する。
- 簡単な会話を聴かせ、クイズやゲームなどを利用してその真偽を把握させる。
- 簡単な会話を聴かせ、会話の順番に合わせて会話を並べさせる。
- 様々なアンケートの内容などを聴かせ、チェックリストなどにチェックさせる。
- 簡単な注意事項、案内放送などを聴かせ、正しい内容を文章や絵などに提示して選択させる。
- 1日の日課、料理づくり、旅行プランなどの内容を聴いて表を完成させるように指導する。
- 短くて易しい会話を聴かせ、絵などを用いて会話参加者間の上下関係を区別できるように指導する。
- 上下関係のある動画を用いて正しい敬語表現について理解させる。
- 呼び方、敬称などに関する動画を用いて会話参加者間の親密度を理解させる。
- 言語の4技能(聴く・話す・読む・書く)の教授・学習は、自己紹介、ゲーム、歌、ロール・プレーなど、多様な状況を活かした学生参加型授業にすることを勧める。

#### (2) 評価方法および注意事項

- 音声を聴いて清・濁音、長・短音、拗音、促音などの真偽を区別できるかどうかを評価する。
- 音声を聴いて拍数を数えられるかどうかを評価する。
- 短い文を聴いて自然なイントネーションを表示できるかどうかを評価する。
- 韓国人が間違いやすい発音を聴いてそれに該当することばを選択できるかどうかを評価する。
- 教室日本語を聴いて適切に反応できるかどうかを評価する。
- 短くて易しい文章や会話を聴いてそれに該当することばや絵を選択できるかどうかを評価する。
- 数字やことばなどと関連した歌を聴いて意味を理解できるかどうかを評価する。
- 短いメディア資料を聴いてその内容に応じてワークシートの空欄埋めなどができるかどうかを評価する。
- 易しい会話を聴いて質問と答えが自然なものになるように線で正しくつなげるかどうかを評価する。
- 易しい文章や会話を聴いてその内容に合う絵や図表などを選択できるかどうかを評価する。
- 易しい会話を聴いて地図や路線図などの絵から該当する場所などを探し出せるかどうかを評価する。
- 天気予報、電話の会話、簡単な会話などを聴いて主な内容を探し出せるかどうかを評価する。
- 短くて易しい広告(コマーシャル)やアニメーションのような動画を見て主な内容を理解できるかどうかを評価する。
- 簡単な会話を聴いて真偽を把握できるかどうかを評価する。
- 簡単な会話を聴いて順番通りに会話を並べられるかどうかを評価する。
- 簡単な注意事項、案内放送などを聴いて絵などから正しい内容を探し出せるかどうかを評価する。
- 1日の日課、料理づくり、旅行プランなどの内容を聴いて正確に表を完成できるかどうかを評価する。

- 短くて易しい会話を聴いて会話参加者間の上下関係が区別できるかどうかを評価する。
- 上下関係のある会話を聴いて正しい敬語表現が選択できるかどうかを評価する。
- 呼び方、敬称などに関する会話を聞いて会話参加者間の地位や親密度などの違いが区別できるかどうかを評価する。

## (2) 話すこと

- [12월 I-02-01] 音声的特徴に気をつけて話す。
- [12월 I-02-02] ことばまたは短い文を使って自分の意思や情報を表現する。
- [12월 I-02-03] 意思疎通基本表現と関連した短くて簡単な会話をする。
- [12월 I-02-04] 日本人の言語・非言語文化に合う表現を使う。
- [12월 I-02-05] 相手の地位や親密度などの違いを知り、状況に応じて話す。

### (가) 学習要素: 基本語彙表、意思疎通基本表現、言語・非言語文化

- あいさつ: 出会い、別れ、安否、外出、帰宅、訪問、食事、年末、新年、お祝い
- 紹介: 自己紹介、家族の紹介、他人の紹介
- 配慮および態度伝達: 感謝、謝り、称賛(褒め)、苦情・文句、激励、慰労、承諾・同意、拒絶・反対、遠慮、謙遜、遺憾
- 意向および意思伝達: 希望、意志、目的、意見述べ、期待、感情、訂正・否定
- 情報要求: 存在、場所、時間・時、選択、比較/対比、理由、方法、状態、具合・都合、好み・趣味、能力・可能、経験、確認
- 情報提供: 案内、推測、伝言、状況説明
- 行為要求: 依頼、指示、禁止、勧誘、助言・提案、許可、警告
- 会話進行: 話しかけ、言いよどみ、話題の転換、相づち、聞き返し
- 言語文化: 依頼の仕方、受諾・断りの仕方、呼びかけの仕方、表現的な特徴
- 非言語文化: 手振り、身振りなど

### (나) 成就基準の解説

- 言語の4技能(聴く・話す・読む・書く)ごとに成就基準を提示しているが、学校の現場においては言語の4技能を有機的に統合させて教授・学習を行うことを勧める。
- 日本語の音声的特徴とは、清・濁音、長・短音、拗音、促音、拍、抑揚(イントネーション)など、発音上の特徴を言う。
- 言語文化とは、日常の言語生活または言語を通して成されるすべての文化を通称する用語で、依頼の仕方、受諾・断りの仕方、呼びかけの仕方、表現的な特徴などがある。表現的な特徴とは、慣用的表現(「顔が広い」、「となりの花は赤い」など)、結婚式(「切る」、「時々」など)や病院(「お元気ですか」、「さようなら」など)などで控えることば(忌み言葉)、別れるときに使用する様々な表現(「さようなら」、「お気をつけて」、「お大事に」など)、韓国語と表現方法が異なるもの(「あれこれ」、「行ったり来たり」、「明日学校ですか」など)などを言う。

### (㉑) 教授・学習方法 および注意事項

- メディア資料などを用いて清・濁音、長・短音、拗音、促音などをあとについて言わせる。
- 手を叩いたりして拍に合わせて言わせる。
- 音声ソフトやイントネーションが示された文などを活用してイントネーションに合わせて言わせる。
- 口腔断面図などを用いて韓国人が間違いやすい発音に気をつけて言うように指導する。
- 絵や写真などを活用して自分の意思や情報を言わせる。
- 写真、ゲーム、動画づくりなどを通して自己紹介、他人の紹介、家族の紹介ができるように指導する。
- 広告紙、メニュー、カレンダーなどを用いて自分の意思や情報が言えるように指導する。
- ロール・プレーを通して意思疎通基本表現と関連した会話をさせる。
- インタビューを通して好み、選択、受諾、断りなどに関する会話をさせる。
- 表示板、地図、絵などを見て簡単な説明ができるように指導し、それと関連した会話をさせる。
- 短くて簡単なメモ、葉書、電子メールなどを活用してその主な内容について言わせる。
- 韓国と日本の絵や動画のような資料を比べながら日本人の断りおよび依頼の仕方について理解させ、それに従って言わせる。
- 韓国と日本の絵や動画のような資料を比べながら日本人の手振りや身振りなどのジェスチャーを表現させる。
- 短くて易しい会話を聴かせ、絵などを用いて会話参加者間の上下関係に従って言えるように指導する。
- 上下関係のある動画を視聴したあと、正しい敬語表現に従って言わせる。
- 呼び方、敬称などに関する動画を用いて会話参加者間の親密度を理解させ、状況に合わせて言わせる。
- 上下関係のあるロール・プレーを通して自分の役割に従う発話をするように指導する。
- 言語の4技能(聴く・話す・読む・書く)の教授・学習は、自己紹介、ゲーム、歌、ロール・プレーなど、多様な状況を活かした学生参加型授業にすることを勧める。

### (㉒) 評価方法および注意事項

- 清・濁音、長・短音、拗音、促音などを含んだことばが正確に言えるかどうかを評価する。
- 拍の数に合わせて言えるかどうかを評価する。
- 音声ソフトなどを用いて短くて簡単な会話を自然なイントネーションで言えるかどうかを評価する。
- 韓国人が間違いやすい発音を正確に言えるかどうかを評価する。
- 絵や写真などを用いて自分の意思や情報が言えるかどうかを評価する。
- 写真、ゲーム、動画づくりなどを通して自己紹介、他人の紹介、家族の紹介ができるかどうかを評価する。
- 広告紙、メニュー、カレンダーなどを用いて自分の意思や情報などが言えるかどうかを評価する。
- ことばまたは短い文で自分の意思や情報について、空欄埋めなどを通して言えるかどうかを評価する。
- 意思疎通基本表現と関連した短くて簡単な会話を順に並べて言えるかどうかを評価する。
- 意思疎通基本表現と関連した短くて簡単な会話を、線を引いてつなげて正しく言えるかどうかを評価する。
- 意思疎通基本表現と関連した短くて簡単な会話を、空欄埋めなどを通して正しく言えるかどうかを評価する。

- インタビューを活用して短くて簡単な会話ができるかどうかを評価する。
- 表示板、地図、絵などを見ながら簡単に説明したり会話したりすることができるかどうかを評価する。
- 短くて簡単なメモ、葉書、電子メールなどの文章を理解し、主な内容が言えるかどうかを評価する。
- 日本人の断りおよび依頼の仕方などについて理解し、それに合う会話を完成させて言えるかどうかを評価する。
- 日本人の手振りや身振りなどのジェスチャーを理解し、それに合う絵などを探し出して表現できるかどうかを評価する。
- 上下関係に従って会話を完成させて言えるかどうかを評価する。
- 状況に合う正しい敬語表現が言えるかどうかを評価する。
- 呼び方、敬称などに関する親密度について理解し、適切に言えるかどうかを評価する。
- 言語の4技能ごとに個別評価と統合評価を行い、バランスの取れた形で評価する。

### (3) 読むこと

- [12月 I-03-01] 仮名と漢字を正しく読む。
- [12月 I-03-02] 音声的特徴に気を付けて短くて易しい文章や会話を正しく読む。
- [12月 I-03-03] 意思疎通基本表現と関連した簡単な文章や会話を読んで主題や意味を把握する。
- [12月 I-03-04] 日常生活と関連した簡単な文章や会話を読んで正しく理解する。
- [12月 I-03-05] 短くて易しい文章や会話を読んで地位や親密度などの違いを区別する。

#### (7) 学習要素:基本 語彙表意思疎通 基本 表現、言語文化

- あいさつ: 出会い、別れ、安否、外出、帰宅、訪問、食事、年末、新年、お祝い
- 紹介: 自己紹介、家族の紹介、他人の紹介
- 配慮および態度伝達: 感謝、謝り、称賛(褒め)、苦情・文句、激励、慰労、承諾・同意、拒絶・反対、遠慮、謙遜、遺憾
- 意向および意思伝達: 希望、意志、目的、意見述べ、期待、感情、訂正・否定
- 情報要求: 存在、場所、時間・時、選択、比較/対比、理由、方法、状態、具合・都合、好み・趣味、能力・可能、経験、確認
- 情報提供: 案内、推測、伝言、状況説明
- 行為要求: 依頼、指示、禁止、勧誘、助言・提案、許可、警告
- 会話進行: 話しかけ、言いよどみ、話題の転換、相づち、聞き返し
- 言語文化: 依頼の仕方、受諾・断りの仕方、呼びかけの仕方、表現的な特徴

#### (4) 成就基準の解説

- 言語の4技能(聴く・話す・読む・書く)ごとに成就基準を提示しているが、学校の現場においては言語の4技能を有機的に統合させて教授・学習を行うことを勧める。
- 日本語の音声的特徴とは、清・濁音、長・短音、拗音、促音、拍、抑揚(イントネーション)など、発音上の特徴を言う。

#### (㉔) 教授・学習方法および注意事項

- メディア資料などを活用し、仮名と漢字を見てあとについて読むように指導する。
- ことばカードのような学習資料を活用し、仮名と漢字を見て読むように指導する。
- カルタゲームのような様々な活動を通し、仮名と漢字を見て読むように指導する。
- メディア資料などを活用し、清・濁音、長・短音、拗音、促音などを区別して資料の発音にならって読むように指導する。
- 手をたたいたりして拍に合わせて読むように指導する。
- メディア資料などを活用してイントネーションに気を付けながら資料の発音にならって読むように指導する。
- 易しい文章や会話を文末から拡張させて読む練習などをさせる。
- 易しい文章や会話を読み、キーワードを探し出すタスクなどをさせる。
- 易しい文章や会話を読み、文章や会話の流れを把握できるように指導する。
- 易しい文章や会話を読み、状況を把握して大意を類推させる。
- 広告、SNS、インターネットなどから抜粋した簡単な文章を読ませ、必要な情報を探索させる。
- 電子メール、携帯電話のメールなどの簡単な情報を読んで適切な行動を取るように指導する。
- メモや葉書などの簡単な文章を読んで適切に反応するように指導する。
- ロール・カードに書かれている簡単な指示を読んで適切な行動を取るように指導する。
- 会話参加者どうしの関係が分かるような、絵などが付いている短くて易しい会話を読んで、地位や親密度を区別させる。
- 葉書や手紙などに登場する表現などを用いて書き手と受け手の関係を理解させる。
- 呼び方、敬称などが使われた短くて簡単な文章や会話を読んで地位や親密度を区別させる。
- 言語の4技能(聴く・話す・読む・書く)の教授・学習は、自己紹介、ゲーム、歌、ロール・プレーなど、多様な状況を活かした学生参加型授業にすることを勧める。

#### (㉕) 評価方法および注意事項

- 仮名と漢字を正しく読めるかどうかを評価する。
- 清・濁音、長・短音、拗音、促音などを区別して読めるかどうかを評価する。
- 漢字の音読みと訓読みを区別して読めるかどうかを評価する。
- 短くて易しい文章や会話を清・濁音、長・短音、拗音、促音などに気をつけて正しく読めるかどうかを評価する。
- 短くて易しい文章や会話を拍とイントネーションに合わせて読めるかどうかを評価する。
- 易しい文章や会話を読んで真偽を把握する能力を評価する。
- 易しい文章や会話を読んで大意を把握する能力を評価する。
- 易しい文章や会話を読んでキーワードや主題語が探し出せるかどうかを評価する。
- 易しい文章や会話を読んで内容に従って順に絵や文を並べられるかどうかを評価する。
- 易しい文章や会話を読んで内容に従って空欄埋めなどができるかどうかを評価する。
- 表示板、案内などの簡単な情報を読んで正しく理解できるかどうかを評価する。

- 電子メール、携帯電話のメールなどの簡単な情報を読んで正しく理解できるかどうかを評価する。
- メモ、手紙、葉書などの簡単な文章を読んで文章を書いた人の意図が把握できるかどうかを評価する。
- 簡単な文章や会話を読んで正しく理解できるかどうかを評価する。
- 絵などを含んだ会話を読んで地位や親密度が区別できるかどうかを評価する。
- 葉書や手紙などに登場する表現を通して書き手と受け手の関係など、地位や親密度が区別できるかどうかを評価する。
- 呼び方、敬称などが使用された文章や会話を読んで地位や親密度が区別できるかどうかを評価する。
- 言語の4技能ごとに個別評価と統合評価を行い、バランスの取れた形で評価する。

#### (4) 書くこと

- [12月 I-04-01] 仮名と漢字を正しく書く。
- [12月 I-04-02] 仮名のつづり方に気をつけて正確に書く。
- [12月 I-04-03] 現代日本語文法に合う正しい文を書く。
- [12月 I-04-04] 意思疎通基本表現と関連した内容を短くて簡単な文に書く。
- [12月 I-04-05] 地位や親密度などの違いを考慮してそれにふさわしい文を書く。

#### (7) 学習要素:基本 語彙表意思疎通 基本 表現、言語文化

- ・ あいさつ: 出会い、別れ、安否、外出、帰宅、訪問、食事、年末、新年、お祝い
- ・ 紹介: 自己紹介、家族の紹介、他人の紹介
- ・ 配慮および態度伝達: 感謝、謝り、称賛(褒め)、苦情・文句、激励、慰労、承諾・同意、拒絶・反対、遠慮、謙遜、遺憾
- ・ 意向および意思伝達: 希望、意志、目的、意見述べ、期待、感情、訂正・否定
- ・ 情報要求: 存在、場所、時間・時、選択、比較/対比、理由、方法、状態、具合・都合、好み・趣味、能力・可能、経験、確認
- ・ 情報提供: 案内、推測、伝言、状況説明
- ・ 行為要求: 依頼、指示、禁止、勧誘、助言・提案、許可、警告
- ・ 会話進行: 話しかけ、言いよどみ、話題の転換、相づち、聞き返し
- ・ 言語文化: 依頼の仕方、受諾・断りの仕方、呼びかけの仕方、表現的な特徴

#### (4) 成就基準の解説

- 言語の4技能(聴く・話す・読む・書く)ごとに成就基準を提示しているが、学校の現場においては言語の4技能を有機的に統合させて教授・学習を行うことを勧める。
- 仮名のつづり方は日本の現代仮名表記法(現代仮名遣い)の規定に従う。
- 現代日本語文法は日本で刊行された「日本語教育辞典、現代日本語文法シリーズ」などで記述している内容を参考にする。



**(㉔) 教授・学習方法および注意事項**

- ペン字練習帳などを活用して書き順に従って仮名と漢字を正しく書かせる。
- ビンゴゲーム、空欄埋めなどを用いて文字とことばを正しく書かせる。
- ことばカードなどを用いて類似した仮名をそれぞれ区別して書けるように指導する。
- メディア資料やインターネットなどを活用して韓国語の漢字と日本語の漢字を区別して書けるように指導する。
- 書き取りなどを利用して清・濁音、長・短音、拗音、促音などを区別して書けるように指導する。
- メディア資料などを活用して韓国人が間違いやすい発音を区別して書けるように指導する。
- 様々な活動を通して助詞(は、へ、を)と送り仮名を仮名のつづり方に合わせて書けるように指導する。
- 歌、プレゼンテーション、教具などを用いて活用形を正しく書けるように指導する。
- 絵や写真などを活用し、状況に応じて使用頻度の高い助詞や助動詞、文末表現などを区別して書けるように指導する。
- 絵や会話などを活用し、使用頻度の高い指示詞、接続詞、副詞を区別して書けるように指導する。
- 韓国人が間違いやすい表現などを提示し、ことばの意味と用法を分け、短くて簡単な文が正しく書けるように指導する。
- 作文の添削活動を通して短くて簡単な文の構造を理解した上で正しい文が書けるように指導する。
- キーワードを活用して短くて簡単な文章が書けるように指導する。
- 電子メール、携帯電話のメールなどを活用して自分の意思を日本語で書かせる。
- メモ、葉書、招待状などを活用して短くて簡単な文章が作成できるように指導する。
- 絵や図表などを見て内容を短くて簡単な文章に作成できるように指導する。
- 簡単な文章や会話を、文脈や文体の違いなどを理解した上で正しく翻訳できるように指導する。
- 漫画などを活用して状況にふさわしい文末表現が作れるように指導する。
- メディア資料を活用して状況にふさわしい呼び方や敬称などが書けるように指導する。
- 地位や親密度を考慮してメモや招待状、手紙などを作成させる。
- 言語の4技能(聴く・話す・読む・書く)の教授・学習は、自己紹介、ゲーム、歌、ロール・プレーなど、多様な状況を活かした学生参加型授業にすることを勧める。

**(㉕) 評価方法および注意事項**

- 五十音図の空欄を埋められるかどうかを評価する。
- ことばカードの空欄を正しく埋められるかどうかを評価する。
- 仮名の書き順に従って正しく書けるかどうかを評価する。
- 韓国語の漢字と日本語の漢字を区別して書けるかどうかを評価する。
- 清・濁音、長・短音、拗音、促音などを正しく書けるかどうかを評価する。
- 韓国人が間違いやすい発音の文字が正しく書けるかどうかを評価する。
- 送り仮名を仮名のつづり方に合わせて書けるかどうかを評価する。
- 文脈に合わせて形容詞・動詞などの活用形を正しく書けるかどうかを評価する。

- 文脈に合わせて助詞、助動詞、文末表現などを正しく書けるかどうかを評価する。
- 文脈に合わせて指示詞、接続詞、副詞などを正しく書けるかどうかを評価する。
- 文脈に合わせて適切なことばを正しく書けるかどうかを評価する。
- 短くて簡単な文の構造を理解して正しく書けるかどうかを評価する。
- 与えられた表現を活用して短くて簡単な文章が作れるかどうかを評価する。
- 自己紹介や将来の希望などのテーマについて短くて簡単な文章が作れるかどうかを評価する。
- 簡単な文章や会話を文脈や文体の違いを理解した上で正しく翻訳できるかどうかを評価する。
- 短くて簡単な文章や会話を日本語入力システムを利用して作成できるかどうかを評価する。
- 状況にふさわしい文末表現が正しく書けるかどうかを評価する。
- 状況にふさわしい呼び方や敬称などが正しく書けるかどうかを評価する。
- 地位や親密度を考慮して簡単な文章や会話が作れるかどうかを評価する。
- 言語の4技能ごとに個別評価と統合評価を行い、バランスの取れた形で評価する。

## (5) 文化

- [12月 I -05-01] 日本人の言語・非言語文化を理解して表現する。
- [12月 I -05-02] 日本の簡単な概観および日常生活文化、大衆文化について理解する。
- [12月 I -05-03] 日本の簡単な概観および日常生活文化、大衆文化について調べて発表・討論する。
- [12月 I -05-04] 相互文化的観点から韓国と日本の文化の共通点と相違点を理解し、表現する。

### (フ) 学習要素:基本語彙表、意思疎通基本表現、文化に関する内容

- 日本の簡単な概観:行政区域、地理、人口、気候、観光名所など
  - 言語文化:依頼の仕方、受諾・断りの仕方、敬語法、呼び方、表現的な特徴など
  - 非言語文化:手振り、身振りなど
  - 日常生活文化:家庭生活、学校生活、社会生活、交通および通信、衣・食・住、スポーツ、旅行、環境、危機管理、年中行事、祭、通過儀礼など
  - 大衆文化:歌、漫画、アニメーション、ドラマ、映画など
  - 文化理解を通じた世界市民意識
- \* 上に提示した文化内容の中からいくつかを選択して扱うことができる。

(日本語Ⅱ:伝統文化:茶道、生け花(華道)、歌舞伎など)

### (ハ) 成就基準の解説

- 相互文化的観点というのは、文化の多様性を認め合い、相互の関係と疎通を重視した文化的接近方式を言う。

- 相互文化的観点から韓国と日本が目指す価値を理解し合い、共有できるようにする。

#### (㉔) 教授・学習方法 および注意事項

- メディア資料などを活用して感謝、断り、依頼、呼称などの仕方を理解し、日本人の言語文化に従って表現させる。
- メディア資料などを活用して日本人の手振りや身振りなどのジェスチャーについて理解させ、日本人の非言語文化に従って表現させる。
- 地図、動画などを活用して日本の簡単な概観を理解させる。
- 絵や写真、生教材(レアリア)、動画などを利用して日常生活文化を理解させる。
- 歌、アニメーション、映画などを利用して大衆文化を理解させる。
- 文化に関する書籍やインターネットなどを活用して日本の簡単な概観を調べさせ、発表・討論をさせる。
- 絵や写真、生教材(レアリア)、画像および動画、インターネットなどを活用して日常生活文化を調べさせ、発表・討論をさせる。
- 歌、アニメーション、映画、インターネットなどを活用して大衆文化を調べさせ、発表・討論をさせる。
- 画像および動画、インターネットなどを活用して日韓両国の言語・非言語文化の共通点と相違点を探して相互文化的観点から表現できるように指導する。
- 動画、インターネットなどを活用して両国の日常生活文化の共通点と相違点を探して相互文化的観点から表現できるように指導する。
- 動画、インターネットなどを活用して両国の大衆文化の共通点と相違点を探して相互文化的観点から表現できるように指導する。
- 文化の教授・学習のときは有用な情報が得られる様々な方法を提示して理解させ、得られた情報を活用した要約、発表、討議などのような学生活動型(グループ別)授業にすることを勧める。
- 文化内容を説明するときは必要に応じて韓国語を使うことができる。
- 文化内容は最近のものの中で客観的で信頼できる資料を使用する。

#### (㉕) 評価 方法および注意事項

- 日本人の言語文化に関する文章を読んで真偽を区別できるかどうかを評価する。
- 日本人の非言語文化について理解し、状況に合わせて使用できるかどうかを評価する。
- 日本人の言語文化について理解し、状況に合わせて使用できるかどうかを評価する。
- 日本の簡単な概観について理解し、質問に答えられるかどうかを評価する。
- 日本の日常生活文化と大衆文化について理解し、質問に答えられるかどうかを評価する。
- 日本の概観および日常生活文化、大衆文化について調べた内容を評価する。
- 日本の概観および日常生活文化、大衆文化について調べて発表・討論できるかどうかを評価する。
- 両国の言語文化の共通点と相違点を区別して言えるかどうかを評価する。
- 両国の非言語文化の共通点と相違点を区別して説明できるかどうかを評価する。

- 両国の日常生活文化、大衆文化の共通点と相違点を区別して説明できるかどうかを評価する。
- 文化の多様性を認め、相互文化的観点から日本文化を説明できるかどうかを評価する。
- 日本人の言語文化、日常生活文化、大衆文化などに関する評価方法として筆記テストまたは様々な遂行評価(調査、発表、討論など)を活用する。

#### 4. 教授・学習および評価の方向

##### 가. 教授・学習の方向

###### (1) 教育課程の性格と目標に従って教授・学習計画を立てる。

- 互いに協力しながら共通の課題を解決する経験をさせ、それを通して他人に対する配慮と共同体意識を高めるなど、人格形成の教育を強化できる方法も考慮する。
- 意思疎通能力を高めることで互いに理解できる幅を広げるとともに、創造性を育む教育も実現できるようにする。
- 文化に関する理解を深めることで世界市民意識を育み、日本文化に対して正しく開かれた姿勢をもつようにする。

###### (2) 学習内容を分析して教授・学習計画を立てる。

- 聴く・話す・読む・書くの4技能が有機的に関わり合ったコミュニケーション活動を盛り込んだ授業を計画する。
- 意思疎通基本表現を理解して活用できるように学習活動をテーマと状況ごとに展開させる。
- コミュニケーション中心に学習した内容を繰り返して練習することで、日常生活の色々な場面において学習したものを積極的に使えるようにする。
- 言語の技能と文化の統合的な教授・学習(文化的内容を素材にした言語技能の学習など)を目指す。
- 学生の成就水準と学習動機を考慮した学習になるようにし、それを中心にして教授・学習計画を立てる。
- 情報通信技術および、その他の様々な学習資料を学生自らがうまく活用して日本文化への理解を深められるような授業を展開させる。

###### (3) 学習の動機づけに効果的な方法、活動タイプ(単独、ペア、組、クラス全体)、学生中心の授業活動、授業内容を確認する活動などを盛り込んだ教授・学習計画になるようにする。

- 学生たちの日本語能力、学習タイプおよびストラテジーなどを考慮して学生中心の授業活動が実現できるように様々な教授・学習方法を選定する。
- 学習の動機を呼び起こし、興味と自信が持たせられるロール・プレー、ゲーム、歌などを取り入れる。
- 学生中心の課題および体験学習を通して自己主導型学習が進められるようにする。
- ペア活動、小グループ活動などの相互作用を積極的に活用して学生たちの自発的な参加を誘導する。
- 学生が自ら参加できる学習環境をつくり、自由な雰囲気ですべて発表できるようにする。
- 学習効果を上げるために絵や写真、録音、動画などの各種の視聴覚資料および、パソコンやインターネットを使った

資料を積極的に取り入れる。

- 学校の環境、水準、特性などを考慮して上の教授・学習方法を選択的に活用することもできる。

## 4. 評価の方向

### (1) 教育課程の性格と目標に従って評価計画を立てる。

- 教授・学習方法の基本方向である人格形成教育、意思疎通能力の向上、世界市民意識の高揚に基づいて評価方向を決める。
- 評価の客観性を維持するために明確な評価基準を事前に設けておく。
- 評価の結果は個別指導に活かす一方、これからの教授・学習計画に反映させる。
- 学習ポートフォリオを活性化し、学習過程についての記録を残し、自己評価資料として活用する。

### (2) 学習内容を分析して評価計画を立てる。

- 基本語彙表と意思疎通基本表現を中心に日常生活と関連した基礎的な日本語を理解して表現する言語活用能力を評価する。
- 成就基準に達しているかどうかを確認するための形成評価を随時行い、評価が教授・学習の一環になるようにする。
- 評価に使われる問題は成就基準に基づいて開発し、評価を通して学生たちが成就基準に達しているかどうか分かるようにする。
- 本筋や中心からはずれた例外的な内容より、基本的で重要な内容を中心に評価する。
- 学習活動の性格に従って流暢性と正確性の割合を柔軟に調整する。
- 評価項目に従って個別評価と統合評価を適切に実施し、統合評価の比重を少しずつ増やしていく。
- 学習した内容を中心に聴く・話す・読む・書く能力をバランスよく評価する。
- 個別の言語技能に対する評価とともに統合的な言語技能に対する評価も適切に実施する。
- 統合的な言語技能に対する評価は教科科目の水準と学生のレベルに従って統合の度合いを調整して実施する。
- 文化に対する評価は基礎的な知識だけでなく意思疎通と関連した文化内容を正しく理解しているかどうかを中心に評価する。

### (3) 学習活動タイプ(単独、ペア、グループ、クラス全体)、学生中心の授業活動、授業内容を確認する活動などが含まれるように評価計画を立てる。

- 教授・学習過程に形成評価を実施することで学生が学んだ成就基準を正しくクリアしているかどうかをチェックし、学習上の問題点を把握して学生が自ら問題を解決できるようにサポートするとともに今後の学習に対する方向づけを行う。
- 授業への積極的な参加を誘導するために、学習者の意思疎通活動への参加度を評価に反映させる。
- 統合言語技能に対する評価は教授・学習過程において統合的課題を遂行できるようにしながら観察評価、自己評価、学生相互評価など、様々な方法を用いて実施する。
- 情報通信および、その他の教授・学習資料の探索と活用能力に対する評価は遂行評価を活用する。

- なるべく遂行評価は授業活動と連携して実施し、遂行評価の方法については具体的に計画して授業時間に学生たちに知らせ、採点基準を具体的に設けて公正な評価が行われるようにする。
- 学校の環境、水準、特性などを考慮して上の評価方法を選択的に活用することもできる。